

心不全入院患者の予後予測における至適な心エコー図検査のタイミングについての検討 (OPTimal TIMing of echocArdiography for heart faiLure inpatients in japanese institution: OPTIMAL)

1. 対象患者

各施設で心不全により入院となった患者を対象とする。ただし、年齢、性別、原疾患は不問とする。

2. 対象者の目標人数

1000例

3. 方法

各施設で心不全入院後に経胸壁心エコー図検査を施行した症例数、その回数を調査する。施行された心エコー図検査を入院直後（入院後24時間以内）、入院早期（入院24時間以降～1週間以内）、退院時（退院前1週間以内）に分け、得られた画像を用いて各種心機能指標の計測を行う。予後調査は各施設に通院している場合は診療記録上、通院していない場合はかかりつけ医もしくは本人に電話で2～3分程度、現在の健康状態を確認することで行い、心エコー図データと予後との関係を検討する。

4. 主要評価項目

a. 心エコー図検査

評価項目は各施設の心エコー図検査の方法に基づき、画像を収集する。

b. エンドポイント

心臓死を一次エンドポイントとして評価する。二次エンドポイントとしては心血管イベント（心臓死、心不全再入院、致死性不整脈、非致死性心筋梗塞）を用いる。

神戸大学循環器内科に事務局および画像解析のCore laboratory を置き、心エコー図検査のデータならびに臨床データの収集を行い、全ての解析を行う。